

今村 六王議員



Q 木の香湯温泉の 早期再開を 運営方法を 検討している

甚大な被害を受け、復旧に長い時間と巨額な費用を要する。数ある村内の温泉の復旧には検討が必要かと思われる。村民の憩いの場である温泉であるので、早急に再開をお願いしたい。



早期再開が望まれる木の香湯温泉

A 企画観光課長

この施設は、住民の福利厚生・健康増進の施設であり、多くの皆さまが利用されていた。

今村議員
木の香湯温泉は、河陰地区に18年前に建設された。

豊かな湯量と軟らかな泉質、周辺の豊かな自然景観で、熊本市内また、多方面から多くの利用客を集めてきた。しかし、本年4月の熊本地震では無残に倒壊し、現在使用することは困難な状況となっている。

木製の香湯温泉も被害を受けたことから、調査を行った結果、屋根瓦の崩壊、構造材や設備機器の損壊、地中埋設配管の外れ等があった。現時点で復旧そのものが不可能との報告を受けている。多額の費用がかかるので、公設公営・公設民営・民設民営等の方式を考え

ている。

村長

この施設を、これまで愛してこられた皆さま方に、署名要望をいただいているので、気持ちにしっかりと添って行かなければと考えている。

公営の話があつたが、民間の力を借りながら地元が自由に利用できるような形態がもう一つの方法だと思つて、もう少し時間をいただきたい。

Q 久木野地区学童保育を 村直営にしては

4月までには検討したい

A

今村議員

久木野地区の平成29年度の学童保育希望者が30名をオーバーすることが考えられている。

現在も福祉センターは狭く、村内の他の学童保育同様プレハブ対応等してほしいという保護者からの意見があるので、早急に考えてほしい。

学童保育は、放課後の学習の場であり、交流の目的である。近年は学童を取り巻くセキュリティ環境の変化から、共稼ぎの両親が安心して預けられる施設となつて

設となつている。

災害復旧に関する財政的な負担もあるが、今後の将来を担う児童にとつては不可欠な施設である。久木野地区も村直営方式へ見直してほしい。

住民福祉課長

久木野地区の学童保育は、社会福祉協議会が保護者会から委託を受け、久木野福祉センターで行っている。村は運営費の補助を行っている。

次年度以降については、委託を受けている社会福祉協議会と、実施場所、実施方法等について協議したい。村直営か委託かにかかわらず、安心安全な児童の居場所

づくりに努力したい。

村長

要望が出してある中で、村内の他の学童保育と同じように村直営でやるのが良いと考えている。

今の場所では、狭く出来ない。今後しっかりと検討したい。4月の開始に向けて色々な条件をしっかりと検討し、整えていきたい。



村直営が望まれる久木野地区の学童保育